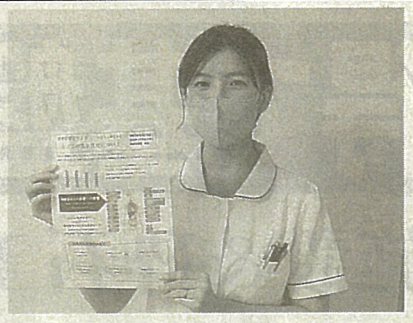
物流ニッポン LOGISTICS NIPPON

健康経営のススメ

ボルテックスセイグン

従業員の禁煙サポート

1年がかり 成功者に報奨金



社員向けのリーフレット「保険だより」を持つ黒田保健師

トラック運送業界の喫煙率の高さへの危機感から、ボルテックスセイグン（武井宏社長、群馬県安中市）が従業員の禁煙をサポートする「禁煙チャレンジ」を1年かけて実施し、大きな成果を上げた。2020年に45%だった従業員の喫煙率は、25年7月には25%まで低下するなど、成果を上げつつある。

これまでも同社は従業員の健康管理に力を入れており、10年前に健康管理室を創設し、保健師が常駐するようにした。また、健康診断の再検査受診率100%を基本とし、検査費用の会社負担分を充実させるなど健康意識の向上に努めてきた。こうした取り組みにより、17年から健康経営優良法人の認定を受けている。また、25年には優良法人の中でも優れた上位500法人に対して認定される「ブライト500」にも認定された。

心疾患や脳の疾患を優先して取り組んできたが、高齢化とともにがんになる従業員が増えてきた。五十嵐康幸監査役は「従業員でがんになる人が数人続き、会社として危機感を持った。高齢化が進む中、健康であれば長く勤めてもらうことができる」と話す。

運送業界の喫煙率が他の業界と比較して高いという状況から、「世界禁煙デー」でもある24年5月31日から25年7月にかけて「第1回禁煙チャレンジ」を実施。1年間の禁煙継続を目指し、1カ月、6カ月、12カ月と期間に応じて禁煙達成報奨金を用意。グループ全体で27人が禁煙に成功し、従業員全体の喫煙率は25%まで低下した。

唐澤仁志取締役は「生涯現役は理想だが、60歳を超えると気力・体力が落ちてくる。その中で安全第一を実現するためにも健康に力を入れないといけない。継続して積み重ね、健康意識を高めると効果が出てくる」と語る。今でこそ健康診断の再検査受診率100%を基本としているが、取り組み当初は27%ほどにとどまっていたという。

社員向けのリーフレット「保険だより」を毎月作成している健康管理室の黒田綾桂保健師は「これまでの積み重ねで健康意識に対する雰囲気づくりがうまくいっていると感じる。健康診断の結果に対してもドライバーが積極的に相談してくれる」と話す。

五十嵐氏は「『2024年問題』がクローズアップされ、ドライバー不足が認知されてきたが、今がピークではない。『2030年問題』のほうが高齢化する分だけドライバー不足に拍車が掛かる。物流を維持し、社会活動を停滞させないためにも、業界全体で健康に対する意識を高く持つ必要がある」と力を込める。

（ダシルバ・サミー）